



甲府駅北口をバラで彩る ～「ラ・ロ (LOVE & ROSE) の会」～

昨年、甲府駅北口に移築、修復し、新しく生まれ変わった藤村記念館、その花壇を中心に、バラを管理をしている「ラ・ロの会」委員長の村松正美さんと副委員長の平原貞美さんにお話を伺いました。

会の発足のきっかけは、昨年9月に甲府ワイズメンズクラブが市にバラの苗を寄贈したこと。

4月から甲府駅北口公共施設の指定管理者となった甲府駅北口まちづくり推進委員会が主体となり、「甲府駅の北口一帯を歴史や文化、観光の拠点として、訪れる人に感動と喜びを与えたい」そんな思いを持ちながら一緒にバラづくりの活動に参加してくれる方を募集したところ、手作りのチラシを見た方からたくさんの問い合わせがありました。



「たくさんの方が、このボランティア活動に参加してくれて、とてもうれしいですね」と委員長の村松さん。バラを寄付したいと言う方もいるそう。

今年2月には発足会を開催し、現在、メンバーは55人。駅の北口周辺に住む主婦の方が中心で、8割以上が女性だそうです。

現在、藤村記念館の花壇には、58株、26品種のイングリッシュローズが植えられています。イングリッシュローズはオールドローズから伝統的な花の形や香りを、モダンローズから華やかな色彩や四季咲きの性質を受け継いだ交配種で、それぞれの良いところを併せ持った人気の品種。見ごろも長く、4月中旬から12月まで楽しめるそうです。



丁寧に手入れをされた苗。見ごろになるのが楽しみです。



「大好きなバラの育て方を覚えながら、自分たちが住む北口も元気になるべし」と手入れ作業にも熱が入ります

イングリッシュローズとひとくくりに言っても、その特徴は多種多様。色は、白や黄色、赤やピンク、花の大きさもさまざまで、咲き方も「ロゼット(多芯)咲き」、「カップ(盃状)咲き」など見る人を飽きさせない魅力があります。

「バラは、定期的な消毒や水やり、剪定などにとっても手間がかかり、特に夏場は土がすぐに乾いてしまうので、週に3回以上水をあげないと、すぐにだめになってしまうんです」と平原さんは言います。

今は活動を始めたばかりなので、作業のたびに全員が集まっていますが、今後はメンバーを4つの班に分けて、当番制で手入れをしていくことも考えているそうです。



「イングリッシュローズは花の美しさはもちろん、香りが良いことも特徴なので併せて楽しんでほしいですね」と副委員長の平原さん。

「今後は、バラの展示会や写真展、バラにまつわる歌のライブなどいろいろなイベントの展開も考えていきたいですね。また、藤村記念館だけではなく、甲府駅北口一帯にバラを植えて、「歴史や文化、観光の香りがいっぱい北口」というイメージを定着させていきたいです」とバラを通したまちづくりへの熱い想いを語ってくれました。

★ラ・ロの会では、バラを美しく咲かせる知識を学びながら、まちづくりにも参加していただける方を募集しています。

問ラ・ロの会事務局(甲府駅北口まちづくり推進委員会内) …☎(252) 8797